

*ベテスダの池。エルサレム神殿の北側にあった人口のプールのようなもので、二つの池を取り囲む4つの回廊と真ん中に1つの回廊があった。19世紀から発掘され現在でもまだ続いている。この池に、多くの病人や体の不自由な人が横たわっていた。写本によっては5章の3節後半と4節に、「主の使いが時々この池に降りてきて、水を動かすが、最初に入った者は癒された」という文言があった。癒しの言い伝えがある池であった。

*ここにイエスが来られて、38年間病気で動けない人に声をかけられた。「よくなりたいか」（5：6）この病人は何とかして水が動いた時に池に入りたいが、自分では動けず、だれも助けてくれない、と嘆いていた。イエスに声をかけられ、チャンスと思ったのかもしれない。

「よくなりたいか」ということばは、主イエスの思いやりの気持ちと同時に、あなたは本当によくなりたいたいと思っているのか。という意志を確かめる意味もあっただろう。病気が長くなると段々闘う気持ちが薄れて、甘えとあきらめの気持ちが強くなってくるからである。彼は、助けは神から来ることを忘れて、自分の考えられる範囲（ここでは池に一番で入ることのみ）に限定していたのである。

*イエスは本当の癒し主は誰であることを示された。「起きて、床を取り上げて歩きなさい。」（5：3）38年ぶりに与えられた自由。この人の喜び踊る姿が目につかぶ。しかし、癒してくれたのが誰であるかまだ分からなかった。「その後、イエスは宮の中で彼を見つけて言われた。「見なさい。あなたはよくなった。もう罪を犯してはなりません。そうでないともっと悪い事があなたの身に起こるから。」（5：14）この人が何らかの罪が原因で病気にかかったということは考えられる。しかし、もっと深いところで、神を忘れていた、神から離れていた生活をしていたことを指していると思われる。神に立ち返りなさい。本当の癒し主は神であり、あなたの病気を瞬時に直したこの私である、とイエスは言われているのである。

*病気には、からだの病気、こころの病気の他に靈魂の病気がある。神との関係が途絶えていたり、罪を犯してもそのままになっていたりすることである。どんな病気でもすべて癒し主は主イエス・キリストである。病気になったとき、「よくなりたいか」と必ず声をかけてくださる。その声に素直に答えて待つことである。主イエスはあらゆる手段を用いて必ず癒してくださる方であることを信じよう。